

令和元年6月20日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02897

研究課題名(和文)近代中国における「民意」・「敵意」の形成と民俗・象徴を巡る社会統合

研究課題名(英文)The formation of "people's will" and "hostility" in modern China and social integration related to folk and symbol

研究代表者

丸田 孝志 (MARUTA, Takashi)

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号：70299288

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：戦後内戦期の農村の政治動員の中で、中国共産党は伝統社会の流動性の高さに応じた秩序形成の手法を踏襲し、個々の政治的態度や資格を含む等級区分を人々に付与・剥奪することで、その忠誠を引き出すことに成功した。共和国建国後の民衆の祈雨活動、天災に関わる流言、神水・神薬騒動において、民衆は政権の迷信禁圧に激しく反発しながらも、個々の利害に基づく迷信行為を政府の権威によって正当化しており、政府が天や神を敬い、その恩徳を天下に及ぼすことを求めていた。大衆が民意を天意として、強い自己主張をする一方、中共権力はその構造の下、指導者の物語や革命の伝説の創造を通じて民意を天意として回収しようとしていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本や西欧と異なり、早くから身分制が解体し、中央集権の官僚制国家を形成した中国の社会・国家統合の原理は、基層社会の共同体が客観的法規範によって権力と対峙する形態を取らず、全体の正義としての天の下に国家の価値・道徳を頂点として国家と社会がつながり、同形の機能を果たしてきた。本研究は、このような構造が中共の革命権力にも継承され、破壊的な大衆動員に成功したこと、民意を天意に回収するイデオロギー構造を構築したを明らかにした。また、全体の幸福という基本原理の下、最基層の大衆が強い権利意識に目覚め、このような社会-国家統合に参入していくという独自の近代化の過程を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：During the civil war period, CCP successfully earned mass allegiance in rural mass mobilization, by granting and depriving people of political grade divisions, which included individual political attitudes and qualifications, following the method of order formation according to the level of liquidity in traditional society. After the establishment of the PRC, superstition, the Chinese mass strongly repulsed the administrative prohibition of superstition such as praying for rain, rumors about natural disasters, collective action for god's medicine, but they also justified superstitious acts based on individual interests by the authority of the government. While the mass made a strong self-assertion with the will of the people due to the intension of the heaven, and premised on such a structure the CCP government tried to recover the will of the people due to the intension of the heaven, through the creation of the leader's tales and the legends of the revolution.

研究分野：東洋史学

キーワード：中国共産党 民意 毛沢東 民間信仰 民俗 物語

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、個別分散性の背後で情況依存的な個人関係のネットワークが展開する中国社会の特徴に応じた統治の構造を中国共産党(以下、中共)の根拠地に即して一定程度明らかにしたが、申請者が対象としたのは基層の地縁的共同性が特に弱く、会門的結合が展開する華北農村の中共根拠地であり、長期的に日本の占領下にあった地域、国民政府や地域権力統治下の地域など、地域独自の動員の原理の分析や、多様な地域が相互に作用して中華人民共和国の成立に繋がる過程についての考察はできていない。また、都市社会における大衆動員や政治的権威の構造の分析についても課題が残されている。この他、近代中国における立憲制の構築に関する研究、リベラリズム研究、権力の正当性を巡る政治史研究の進展に比して、中共の「民意」の形成と正当性の獲得、権力による「民意」の操作・創出の手法などの問題については十分に解明されていない。近年、伝統思想の文脈から近代思想受容の問題を解釈する研究が展開し、三品英憲(2011)は、伝統的な「公」の概念のあり方を基礎として、毛沢東によって「民意」の解釈権が独占されていく過程を提示しているが、これらの成果を踏まえつつ、中華人民共和国成立に関わる民俗・象徴・儀礼の再編に関わって、「民意」を形成する社会構造、伝統的社会規範の通念と近代思想との関連、メディアと社会の関係の変容など、考察すべき問題は多い。戦争と革命の時代、「民意」に関わって、革命の大義の主張とそれに対応する形で現れる「敵意」の形成が問題となるが、これを社会的脈で読み解く作業は、笹川裕史(2011)の先駆的な研究を例外として十分ではない。

### 2. 研究の目的

本研究は、総力戦体制下の中国における権力の正当性獲得と大衆動員の手法を民俗・象徴・儀礼の再編を手掛りとして分析し、そこにおいて形成される「民意」と「敵意」の構造を別出し、中華人民共和国成立に至る政治過程を社会・文化・心性の側面から解明する。その際、社会的流動性が比較的大きく、血縁、業縁、結社などの多様なネットワークが駆動する中国の社会状況と、伝統的な権力観や権力と社会の関係に着目しつつも、近代都市における大衆動員や政治的権威形成の構造、国際環境や国民国家の枠組みなど近代の歴史的條件を視野に入れ、都市・農村、日本占領地と中共根拠地等の対比・関連を意識して分析を行う。

### 3. 研究の方法

(1)華北農村社会の農曆の習俗、儀礼、民間信仰およびこれらを組織する社会関係を、農村社会史や民俗学・人類学の成果に学びつつ検討した上で、(2)中共根拠地と満州国、華北傀儡政権、閻錫山政権について、農曆の時間・習俗、民間信仰、民間結社に関する政策、儀礼・記念日活動、象徴(国旗・指導者像等)についての政策などの検討を通じて、政権の基層組織建設の問題を社会との関係で分析する。更に、(3)都市部の儀礼、象徴操作、都市社会の世論形成の問題を農村との関連・対比を含めて分析する。以上をふまえて、(4)各政権の民俗利用、文化的統合政策における志向性、政治動員と権力編成の特質、共通性、連関を分析する。それぞれの権力の構想する秩序と社会の自生的な秩序が、いかに関係・対抗して「民意」と「敵意」形成され、社会の動員、統合、秩序の破壊・再編が進展したかを検討する。

### 4. 研究成果

#### 研究代表者の研究成果

#### (1)曆書と民俗利用

中華民国期の通書(民間曆)に記載された象徴と時間の問題について研究を進め、北京政府、日本傀儡政権(満州国・中華民国臨時政府・華北政務委員会・汪精衛政権)などの伝統を価値とする権力が、曆に込められた民間信仰や曆の伝統的体裁を利用しながら、そこに近代的要素を導入し、社会統合、政治動員を推進していく状況を確認した。曆書における民俗利用による国民統合・国家統合の試みは、このような諸政権の対抗関係の中で進行しており、中共の曆書に関する民俗利用の試みも、同時代の政治状況に強い影響を受けながら成立したものであった。

#### (2)毛沢東の伝記・物語

毛沢東の権威確立とともに成立する毛沢東の伝記と物語が、整風運動以降の中共の権力構造とどのような関係に位置づけられていくかについて、1930年代から建国初期を対象に検討を行った。伝記については、戦後国共内戦期においては、大衆の中共への支持を獲得するため、人間的な魅力に溢れ、中国の伝統文化に通じる毛沢東の姿を伝える伝記が成立する一方で、合法闘争も行うリアルな指導者像が後退したことなどを明らかにした。毛の伝記は、成立当初から毛の「民衆の学生になる」、「人民に奉仕する精神」を称賛しており、これが共産党員の基本的徳目として強調された。このようにして、自己犠牲の精神と民衆への慈愛に満ちた指導者の物語を通じて、「人民の意志」を最も知り体現した無謬の英邁な指導者による「人民の意志」の解釈権の独占が完成したことを確認した。このような状況は、善なる天の意志によって統治する真明天子が、民意を天意に回収する構造にも類似していることを確認した。

物語については、1940年以降、元紅軍幹部の証言による人間味あふれる物語が生まれる一方で、伝記と同様に自己犠牲の精神に満ちた指導者のイメージを表現する物語が発展していった

こと、教育を受ける環境にある党员幹部・兵士・青少年などが、物語を通じて毛に学び、自らも模範として毛の精神を实践するよう教育されるようになったこと、毛沢東による人民の意志の解釈権と決定権がこのような形で、組織的教育を受ける人々によって支えられようになったことなどを確認した。上述のような民意を天意に回収する構造の下、毛の恩徳を父母の慈愛に例えてその権威を正当化する「忠孝一致」の物語が成立、普及していくが、民間信仰の枠組みを利用して成立した毛に関する革命の伝説は、物語の中の民衆の言動を通じて間接的にその神格的な威力を表現するものであった。書物上の物語は、神仙を深く信じる基層大衆を直接の対象とするものではなかったが、これらの物語は、「大衆に学び、大衆とともに歩む」大衆路線の論理に従い、民衆の名を借りた圧力によって毛の神格化を促進するものであった。民間信仰の文脈によって指導者を崇敬する最基層の民衆にとって、毛の権威は現世利益的で多神教的な信仰の中に位置づけられ、「天」の下で相対化される危険を孕むものであり、権力が教育感化できる範囲にある人々への圧力こそが毛沢東崇拜を徹底させる上で、最も緊要なものであった。

### (3) 追悼儀礼と毛沢東像

日中戦争末期から戦後国共内戦時期の中共根拠地における毛沢東像の導入と烈士追悼儀礼の組織について、権力と社会の関係に分析の焦点を当てて検討した。毛沢東像は多神教的、現世利益的な民間信仰に依拠して神像の代替として普及し、中共が望むような絶対神の地位を確立したわけではない。毛沢東像は基層党組織の立ち上げの際、会門の盟誓を模倣した儀礼において終末思想の救世主的な位置づけで使用されることもあったが、このような儀礼は、権力が地縁的組織性の弱い社会を代替して民衆に安全保障を提供するという機能によって組織されたものであった。その一方で、会門の盟誓に示される反乱のイデオロギーは、民意を天意とする真命天子の統治の根拠となる正統思想でもあり、ここには権力と社会、正統と異端を分かちがたい構造が存在していた。追悼儀礼については、特に村の鎮守と氏神が融合する形で地縁組織が重層的に上位の共同体の祭祀へと発展する日本の状況と、族の祭祀が地域の祭祀へと展開しない中国の状況との比較において検討した。追悼儀礼にも、個別家庭の祖先祭祀を道徳的価値として万民に等しく認めようとする正統思想が継承されていた。

### (4) 戦後国共内戦期における政治動員

戦後国共内戦期における中共冀魯豫区根拠地の政治動員について、社会の流動性に依拠して形成されてきた伝統中国の秩序再編の手法との関係において検討した。冀魯豫区農村は小農経営を中心としており、土地が不足し、人々は各種副業や賃労働によって生活を維持していた。そのため、土地改革のみでは多くの民衆を動員することはできず、中共は食糧や就業の機会を求める無産大衆を積極分子・党员・兵士として組織して、大衆運動と軍事闘争を展開した。中共は大衆運動の中で、階級区分を基礎とし個々の政治的態度や地位・資格を含む「政治等級区分」を付与・剥奪することで、人々の忠誠を引き出すことに成功した。政治的態度に基づく可変的な等級区分は、徳の高さを地位の根拠とする伝統社会の理念に一致し、民衆の中から大量の積極分子と党员が抜擢する大衆動員の過程においては、伝統社会の秩序構築の手法である会門の盟誓が使用された。

### (5) 中華人民共和国建国初期の民間信仰と革命の伝説

中華人民共和国建国後の民衆の祈雨活動、天災と統治者の交替を巡る流言、神水・神薬騒動および中共が創造した革命の伝説を対象に、民間信仰が新たな権力をどのように解釈し、互いがどのような関係を結ぼうとしたのかについて検討した。急速な社会経済の改造を伴う政治運動の下で進行した中共政権による迷信禁圧は、民衆の強い反発を引き起こしたが、一方で民間には、政府の権威によって迷信行為を正当化する行動も多くみられた。祈雨や神水・神薬によって命をつなごうとする民衆の自発的行動は、全てが反政府的なものではなく、中共の階級教育を受けて「権利意識」に目覚めた人々は、政府が不信心を改めて、天や神を敬い、その恩徳を天下に及ぼすという「本来の務め」を要求していた。このような民間信仰の志向性に対し、権力は指導者や紅軍が民衆のために奇跡を起こす革命の伝説を創造して、これを体制内に取り込もうとしていた。「革命の伝説」は、天や神仏を畏敬する民衆とこれを禁圧する権力という現実の構図を、奇跡をもたらす革命の正義を支持し、反動的な国民党権力に対抗する民衆という物語の構図に組み替えるもので、民間信仰と表裏一体を成す権力によるイデオロギー独占構造を再構築する試みであった。

日本や西欧と異なり、早くから身分制が解体し、中央集権の官僚制国家を形成した中国の社会・国家統合の原理は、基層社会の共同体が客観的法規範によって権力と対峙する形態を取らず、全体の正義としての天の下に国家の価値・道徳を頂点として国家と社会がつながり、同形の機能を果たしてきた。本研究は、このような構造が中共の革命権力にも継承され、破壊的な大衆動員に成功したこと、民意を天意に回収するイデオロギー構造を構築したを明らかにした。また、全体の幸福という基本原理の下、最基層の大衆が強い権利意識に目覚め、このような社会-国家統合に参入していくという独自の近代化の過程を明らかにした。

## 研究分担者の研究成果

研究分担者は、中国リベラリズムの「愛国」「民主」に関わる議論を検討し、「愛国」を中国変革の手段と位置付け、連邦制的な統合を容認し、個の尊厳の保障を最重要の価値として「当事者主権」を堅持し続けた思想の広がりから、中国近代史の「もう一つの可能性」を展望した。また、このような可能性を孕む中華人民共和国建国初期の中国民主建国会の政権構想と人民代表大会選挙への対応について検討した。

### 5. 主な発表論文等

#### 〔雑誌論文〕(計3件)

丸田孝志「毛沢東の物語の成立と展開 - 日中戦争から建国初期 - 」『東洋史研究』第77巻第4号, pp.137-172, 2019年, 査読有り

丸田孝志「戦後国共内戦期・中国共産党根拠地の大衆動員と社会 冀魯豫区根拠地を中心に」『史学研究』第296号, pp.16-44, 2017年, 査読有り

丸田孝志「“満州国”《時憲書》と通書 伝統、民俗、象徴的再構築と変遷」『抗戦文史研究』第5輯, pp.38-50, 2016年, 査読無し

#### 〔学会発表〕(計9件)

丸田孝志「近年来日本学界对中共史的研究 以1940年代为中心」第十二届「現代中国与東亜新格局」国際シンポジウム, ソウル大学, 大韓民国ソウル市, 2018年

丸田孝志「毛沢東伝、故事の形成と展開: 從中日戦争時期到建国初期」第十一回「現代中国与東アジアの新環境」国際シンポジウム, 大阪大学, 大阪府吹田市, 2017年

丸田孝志「近年来日本学术界对1940年代中共党史的研究」, 「西方經驗与近代中日交流的思想連鎖學術検討会」, 中華民國中央研究院, 中華民國台北市, 2017年

丸田孝志「毛沢東伝、故事の形成と展開: 從中日戦争時期到建国初期」, 「近代東亜知識人の国家構想學術検討会」, 中華民國中央研究院, 中華民國台北市, 2017年

丸田孝志「毛沢東形象的形成 抗戦時期故事の成立と展開」, 紀念全面抗戦爆發抗日戦争80周年国際學術研討会, 中国抗日戦争史学会 中国社会科学院歴史学部 中国社会科学院近代史研究所, 中華人民共和国北京市, 2017年

丸田孝志「中華人民共和国建国初期的民間信仰与「革命伝説」」, 日中共同研究 中国当代史研究 第5回ワークショップ「1950-60年代の中国」, 中華人民共和国上海市, 2016年

丸田孝志「中華人民共和国建国初期的民間信仰与「革命伝説」」, 第十回「現代“中国”の社会変容と東アジアの新環境」国際シンポジウム, 中華人民共和国済南市, 2016年

丸田孝志「毛沢東形象的形成 從抗日戦争期到建国初期故事の成立と展開」, 第九回現代中国の社会変容と東アジアの新情勢国際シンポジウム, 中華人民共和国長春市, 2015年

水羽信男「自由主義知識分子的国際情勢観 以1945年前後为中心」, 「中日戦争衝撃的亜州」国際シンポジウム, 中華民國台北市, 2015年

#### 〔図書〕(計4件)

丸田孝志(pp.192-211), 水羽信男編『アジアから考える 日本人が「アジアの世紀」を生きるために』, 担当「竈神と毛沢東像 戦争・大衆動員・民間信仰」, 2017年

丸田孝志(pp.271-307), 笹川裕史編『戦時秩序に巣喰う「声」 日中戦争・国共内戦・朝鮮戦争と中国社会』担当「民間信仰と「革命の伝説」 祈雨、変天、神水・神薬を巡る建国初期中国の民衆と権力」, 創土社, 2017年

水羽信男(pp.421-446), 石井知章編『現代中国のリベラリズム思潮: 1920年代から2015年まで』藤原書店, 担当「1930~40年代中国のリベラリズム」, 2015年

水羽信男(pp.153-pp.168), 深町英夫編『中国議会100年史: 誰が誰を代表してきたのか』, 担当「実業界と政治参加: 第1回全人大と中国民主建国会」東京大学出版会, 2015年

#### 〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：水羽 信男  
ローマ字氏名：MIZUHA, Nobuo  
所属研究機関名：広島大学  
部局名：総合科学研究科  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：50229712

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。